

中国農業を考える(その2)

⑥農村労働力の活用・・・中国13億人のうち農村地区に9億人、これまで農民は都会に戸籍を移すことが出来なかったのですが、試行的に指定された小都市への戸籍の移動が認められるようになりました。これは農村の余剰人口の雇用促進を図るためです。現実には多くの農民が広州・上海・新疆周辺に出稼ぎに行っていますが、戸籍を移すことは出来ません。

⑦農民一人当たりの収入・・・一年間で約2600元ですが、沿岸地区と内陸、都市と農村、農村内の貧富等様々な形で所得格差は拡大しています。湖北省でも、菜種や穀物等の仲買人をして、年間4～5万元稼いでいる農民もいます。

⑧農産物の安全性・・・中国では遺伝子組み換え食品は許可されていません。農薬・除草剤など使用基準が厳しくなり、安全性が確認されて「绿色食品」として販売されているものが年々増大しています。都会生活者の健康志向と安全、安心食品の要望が強まっています。

⑨作目別産地化の進展・・・広い中国では、気象条件、土地条件、社会条件等による大きな産地化が図られていますが、更に省内の市・県・区毎に商品化作物(畜産含む)を絞って、きめ細かな産地化が求められています。これまで同じものを作っていた農民に、新たな動機付けが必要となっています。

⑩市場経済化に伴う流通加工体制の整備・・・農産物の流通、市場、加工分野の適正な整備を図ることが求められています。これまでの国営企業や郷鎮企業は殿様商売でしたが、民営化され自助努力の差が歴然としてきました。消費者が神様となる体制には時間がかかるでしょう。

安達武史 “湖北長江だより★★★水運都市武漢から★★★

第 24 号 2003 年9月 16 日”から

中国農業を考える(その1)

堅い内容で恐縮ですが、動いている中国の農村・農業を改めて考えてみました。どれをとっても大きな課題で、巨大な中国の農村・農業の持続的発展は長い年月が必要でしょう。特に農村に住む9億人の所得向上対策に様々

な政策が進められており、少しずつですが改善が図られています。

①農業生産・・・主要穀物生産の自給が達成されて以降、大都市近郊を中心に野菜、果物、綿花、茶など商品作物が年々増加しています。湖北省など長江流域では菜種が冬作の重要作物となっています。

②農産物の品質向上・・・これまでの増産第一から単収を維持しながら品質向上のための品種改良が急ピッチで進められています。しかし、農民にとって大切な栽培技術の研究は遅れています。

③農産物の輸入は増加傾向・・・主要穀物の自給を達成した反面、大豆は世界最大の輸入国となりました。市場開放が進むにつれて外国の農産物の輸入が増えてきています。菜種の輸入は一時日本並でしたが、国内生産の増加や大豆油の増加等で減少傾向です。



早生、高収量、良質種子販売

④農業機械の導入・・・トラクター、コンバイン、運搬用機械が年々増加して、機械耕耘は約1/4、機械収穫は1/5まで増えました。しかし、耕耘の中心は水牛、役牛で、収穫は人力作業が中心です。出稼ぎの多い湖北省では、母ちゃん達から、重労働から解放されたいとの要望が多くあります。

⑤土地請負制度と組織化・・・中国の土地は広大ですが、農民の耕す農地は少なく、湖北省でも小規模農家が多く、農業に意欲のある農民から大規模農業経営をしたいとの要望があります。そのため政府は、受委託耕作や組織化を図る政策を進めています。今後地域の特徴を活かした大規模農場経営が少しずつ増えることでしょう。

安達武史 “湖北長江だより★★★水運都市武漢から★★★”

第 23 号 2003 年 8 月 31 日”から

「武漢、中国から」2003 年／3

安達武史

湖北省の土家族を訪ねて

湖北省の西部地区は、3000メートルの山間部があり、その中山間地帯は少数民族が住んでいます。この度、宜昌市の長陽土家族自治县を訪ねました。土家族は、湖南省と湖北省に約570万いると言われています。白虎を崇拝し、建築、労働用具、子供服によく描かれています。私の訪れた自治県

には43万人が暮らしています。自治県と言っても漢民族が51%を占めており、行政のトップ(党書記)は漢民族で占められ、県長が土家族とのこと。少数民族の特典は、子供が二人産めること。大学受験で10点足してもらえること。ここでの農業税は土地1ムー当たり40円で、江漢平原農家の約1/3でした。農地は一人当たり1ムー以下と零細です。

この地に1992年多目的ダムが完成してから「土家族の郷里・清江長陽百島湖」として省級観光地となっています。私達は、ダムサイトからモーターボートで約30分、土家族発祥地と言われている島に到着しました。島の中央

には武落ヅン離山があり、頂上から360度のパノラマ。湖と山とそこに住む土家族農家が点在し、お茶、柑橘、菜種、小麦が急斜面に栽培されていました。清々しい空気と水と山菜など自然食品により、長寿県で100歳を過ぎたオバアサンもいるとのこと。純朴な人々の対応に「心の豊かさ」を感じました。夕食後、土家族



土家族の祭り

の歌と踊りを月と満天の星の下で観賞でき、武漢の騒々しい世界を一瞬忘れてしまいました。

この地の観光には少なくとも2日間は必要であり、自然の温泉、川下り、鍾乳洞など名所が多く、宜昌の街から1時間足らずで行けるので、今後観光客が増えることでしょう。武漢市民が隠れた奥座敷として訪れる人が多いようです。ちなみに私達が宿泊したホテルや食堂では、日本人に初めて会いましたと言っていました。

安達武史 “湖北長江だより★★★水運都市武漢から★★★

第 17 号 2003 年 4 月 19 日”から

「武漢、中国から」2003 年／2

安達武史

武漢の桜

武漢の桜は、戦争当時、中支最大の陸軍病院(当時も現在も武漢大学キャンパス内)に植栽された桜樹が現在も樹齢60年を越えて100本近くが健在で、武漢市民も花見を楽しんでいます。本年は入場料10元(1元は約14.2円)徴収する商魂たくましい大学です。私は残念ながら花見の時期を逸してしまい残念。日中の国交が回復してから、1980年代に長江大橋の沿岸(晴

川ホリデーインホテル)に日中友好の桜約200本が植栽されており、3月29日に満開となっていました。

そして、青森みちのく銀行が1997年10月に武漢駐在事務所開設後、武漢市東湖風景区管理局と共同で桜花園整備に取りかかりました。2001年3月には、植樹数5000本に達し、五重塔・日本風庭園の完成に併せて、桜花園が開園しました。桜の種類は、ソメイヨシノを中心に10余種類があり、3月中旬から4月中旬まで楽しめるようになっています。面積約10ヘクタールで武漢市植物園や梅園に隣接した場所にあります。

3月30日には、東湖風景区管理局の主催による桜花見会が催されました。私たち日本人が招待され、弘前の「ねぶた」を真似た出し物や古代楽器の演



長江大橋とソメイヨシノ

奏と踊り等を楽しみました。普段は風景区内での飲食は指定

された場所以外は禁止されていますが、今回は五重塔の前で、お酒と弁当が出されました。日本人は留学生含めて30名ほどの参加で、日本の花見気分が盛り上がりました。

武漢の桜は、山桜が殆どで野山に点在して咲いています。ソメイヨシノ中心の桜花園はやがて中国一も夢ではないでしょう。4月5日には八重桜が満開となりました。私の滞在するホテルに隣接する宝島公園には、日中友好記念桜園(1999年植栽・全部八重桜)があり、ピンクの八重が見事でした。更に数本の黄緑色の八重桜(ウコンザクラ)があり感動しました。

安達武史 “湖北長江だより★★★水運都市武漢から★★★
第16号 2003年4月5日”から

「武漢、中国から」2003年／1

安達武史

ちょっとした話題

① 旅先で思わぬ請求

何時もの出張先で、ホテルの支払いをしようとしたら、「あなたの部屋のテレビのリモコンスイッチが煙草で少し焼けています。弁償して下さい」と言われた。「え、私は煙草を吸わないし、火を使ったこともありません。どうして」「この通り焦げているのはあなたの責任です」とやりとりしたが、ホテルの係員にどんなに説明しても、あくまで弁償しろと引き下がらない。「私も一切火を使っていないので、もともと焦げていたのでしょうか」と1時間やりとりしていたが結局私の責任にさせられてしまった。ホテルに宿泊する場合は、チェックインした時に部屋の主な備品類の異常を確認しておく必要があると思った次第です。今もって私の怒りは収まらない……

② お酒のすすめ上手

中国の方々と会食する機会が多くあります。食事が始まると全員で乾杯、続いて中国の人は一人ずつ外国人である私に乾杯をします。続いて「新年初めてであるから」「もうあなたとは友達だから」等々の理由で乾杯を求めてきます。中国の人たちのお酒の進め方上手には恐れ入るばかりです。乾杯は35度から45度の白酒ですから食事が終わってホテルに戻るとバタンキューですっかり夢の中……

③ 女性達の団体交渉

旅先の当陽市ホテルで宿泊して、自動車で行先に行こうと街に出たら、通行止めと警察官が手を振っている。大勢の人ばかりが見えたので「交通事故かね」「どうも違うようだよ。集まっている人は皆女性だよ」何かと思って外に出て見ると、若い女性達が道路封鎖していたのである。「女性たちが夜の出店の閉店時間を繰り上げられて、売り上げが減ってしまい団体交渉しています」と通訳が言う。脇道のない公道であるためその前後は車が渋滞したままである。このような団体交渉が公然と行われるようになってきたのも現在の中国の動きの一つかも……

安達武史 “湖北長江だより★★★水運都市武漢から★★★

第14号 2003年3月1日”から

変貌著しい武漢

私は武漢に7月26日に到着して二ヶ月半になりますが、急激な変わり様に驚くばかりです。その主なものを上げると以下の通りです。

①高速道路整備が進む

武漢から上海まで高速道路で結ばれ、長江による船輸送からトラック輸送に物流が大きく変わることでしょう。更に長期計画で進められている北京から河北、河南、湖北、湖南を経て広東州珠海までの中国縦断(全長2400km)道路の湖北省内分(339km)の湖北段が完成。武漢外環高速道路も急ピッチで工事が進められています。



黄鶴楼から長江大橋

②市街地の大改造

市街地の主な通り(武漢では大道と呼んでいる)は、車道(片側2車線、3車線)と自転車道と歩道の整備が進められ、私の住むホテルに面した建設大道も8月から古い建物を取り壊して、道路を広げています。市内の主要道路は工事中が多い。更に主なショッピング街は歩行街に変身しています。車の心配がなく安心して買い物が出来るようになってきています。しかし、各商店は宣伝のためにボリューム一杯にあげて音楽と宣伝の声が大変うるさい。

③新しい施設

各種催し物が出来る武漢で最大の国際展覧中心(晴海のような施設)が9月20日に完成し、その一部で花卉展が開催されていました。早速見に行ったのですが、緑化木が中心で園芸用の花は貧弱な蘭が少しあるだけでした。4疔もあるポプラ苗木が展示されているのですから、その内容を想像して下さい。この施設の周辺整備も進み地下歩道も完成しました。武漢体育中心体育場(観客席6万人)が9月始めに完成しました。北京オリンピックの際にサッカーの会場になるとのこと。巨大な施設に驚くばかりです。

④武漢名物の露天食堂街

武漢では以前まで露天食堂は当たり前風景でしたが、最近の道路整備によって、露天は閉め出されてしまっていました。このことが市民から大反発となって、ついには行政側が夜間に限っての露天食堂街を許可しました。一つの通りが夜間だけ食堂街となり、昔懐かしい風景が9月から正式に復活しました。芸人達が歌や演奏をしつこくお客に聴くように問いかけてきます。更に花売り、ポラロイド写真撮影など様々な商売があります。この街は「吉慶街」とオメタイ名前がつけられています。歌は一曲5元、10元です。今武漢名物として売り出し中で、週末は大変込み合っています。

⑤河川敷公園オープン

国慶節に合わせるように、武漢港の長江沿いに新しい公園が一般公開されました。8月の長江洪水では、この河川敷まで浸水した地区です。最大27.76mの水位が現在は20m程度です。洪水時以外は市民の憩いの場所となり、音楽に合わせた噴水まで設置されています。国慶節には大勢の市民と観光客で混雑していました。

安達武史 “湖北長江だより★★★水運都市武漢から★★★
第6号 2002年10月13日”から

「武漢、中国から」2002年／3

安達武史

湖北省の農村見聞記

①農業の中心は広漢平原

8月20日から5日間、長江中流域の湖北省内の農村を一回りしてきました。湖北省は陝西、河南、安徽、江西、湖南、重慶の6の省・特別市に隣接しており、長江のほぼ北側に位置しています。中央に広大な広漢平原があり、道路と水路の両側にはポプラ並木が続いています。ちょうど日本の八郎潟干拓地の風景と似ています。規模は全く違います。東西約2百キロ同じ風景が続きます。長江流域はまさに中国の穀倉地帯です。5日間で走った距離は1千5百キロでした。農業が発展している基礎は、長江の水を有効に利用する灌漑設備や排水施設が整備されたことが大きく、肥沃な土壌条件により農

作物の生産量も高い地域です。今夏の長江は八月としては珍しい洪水となりましたが、最近はどちらかと言うと干ばつ気味で水量が減少する傾向と水質汚染が問題となってきています。

②土地利用と豊富な夏作物

湖北省の土地利用は、長江流域の低平地が多いことから、養魚池がとて多く見かけます。この魚料理は湖北省の特徴となっています。実際は泥臭いため海の魚とは比較出来ません。養魚池の周辺にはレンコン畑があります。現在花はほぼ終わりましたが、七月中旬には一面白やピンクの花で埋まるとのことでした。

養魚池とレンコン畑はほぼ同じ場所に固定されており、他作物との転換はされていません。低平地は水田が多く、最も多く作付けされている水稲は丁度出穂期を迎えていました。こ



こでは細長いインデカ種が多いよう

8月の農村、レンコン畑

です。少し起伏がある地帯では畑作物が多くなり、綿花、トウモロコシ、胡麻、落花生、甘藷、コウリヤン、大豆、桃・梨・ブドウ・柑橘など果樹類も多く見かけました。野菜類は住宅の周辺に多く、トマト、キュウリ、ヘチマ、冬瓜、葉菜類、根菜類など多くの種類がありました。

③どこに行っても道路工事

農村地帯を走る国道は今どこに行っても拡幅舗装工事が進められています。武漢から316号線を550km走り襄陽に行きましたが、朝8時半に出て夕方4時前によやく着きました。コンクリート舗装が多いので時間がかかるようです。また地方都市の市街地も道路整備が進められています。四川省では一年前までが盛んでしたが、湖北省は今一斉に始められたようです。

④湖北人とは

湖北人は金儲けなど抜け目ないと言われていたと聞いたことがあります。何故このような農村地帯にと不思議に感じていました。そこで今回巡回した当陽市や沙洋県で「この土地の人たちの先祖はどこ」と聞くと「殆ど江西省です」と回答あり。広漢平原は入植地であるため重慶・四川・河南・江西など周

辺からの入植であるとのこと。そのため、風俗・習慣が異なり、他の省の人から見ると違った人柄に評価されているのではないかと思った次第です。当陽市では三峡ダムによる移住者6千人を受け入れたとのこと。

安達武史 “湖北長江だより★★★水運都市武漢から★★★
第3号 2002年9月1日”から

「武漢, 中国から」2002/2

安達武史

武漢見たまま

①公園・湖(池)が多い

宿泊している武漢香格里拉ホテルの周辺には、解放公園、中山公園、宝島公園、噴泉公園、そして小さいけれども菱角湖、北湖、西湖が歩いて30分以内にあります。ホテルに隣接している宝島公園では時々ジョギングしています。一周約1.5km。武漢市では、東湖風景区は磨山を中心に広大な湖と公園が整備されています。先週の日曜日に1/4程度の周回に約2時間かかりました。武漢は長江を中心として、二年ほど前から公園や河川敷に歩道、緑地帯の整備が現在も進められており、土日のジョギングで順次走って確認している最中です。



②緑が美しい

街の中を走ったり散歩していると、街路樹のプラタナスやポプラが暑い日差しのもとで青々としており、木々の緑が涼しさを運んでくれます。私が二月

ダンスを楽しむ

までいた成都では、緑であるはずの葉が砂埃で茶色に染まっていたのです。武漢の雨は時々強く降りますので、緑が美しいのでしょう。ホテルの窓から眺めるポプラ並木が見事です。

③下町に庶民の顔が見える

朝のジョギングで庶民の暮らしぶりの一面を感じています。早朝から農民や商売人達が朝市で野菜や果物を売っています。散歩がてらの買い物客が大勢、値段を交渉しながら買い求めています。また、公園は早朝無料開放しているので、散歩や太極拳などする人で賑やかです。公園の入り口では食べ物や日用品を売る人が沢山います。有料となる日中の公園は閑散で

す。

④交通ルールと街の騒音

武漢に来て最初に感じたのは、ブーブー、プープー、ピーピー、ビービー、チリンチリンとバス、トラック、タクシー、乗用車、バイク、自転車等々自分の走る前方を「開けろあけろ」と言わんばかりに大きな音、けたたましい音が騒音となって聞えてきたことです。市街地では禁止されつつあるクラクション、武漢はまだまだです。交通ルールは、武漢の常識になれないと歩行者は大変危険です。車優先の信号と交差点の整備ですから、青信号でも左右はもとより斜め後方など確認しながら横断する必要があります。交通事故が年々増加しているようですから、外国人は特に要注意。

⑤在留の手続きに時間がかかる

外国人の6ヶ月以上滞在は、パスポートに変わる「居留証」の手続きが必要となります。日本で受診した中国滞在向けの健康診断書を提出すると同時に医者への問診があり、健康証明書が発行されます。そして居留証の申請には本人が出頭して面接されます。私は16日にやっと居留証が手に入りました。これで長期滞在が許可され、中国内では身分証明書の変わりとなります。

⑥食べ物

武漢の名物は川魚料理が多いようです。唐辛子や山椒の四川料理のような特徴的なものは少なく、大衆料理の大きなレストランが多く見かけます。ハンバーガーは多く見かけますが、日本食や西洋料理など本格的な専門店は少ないようです。



武漢の名所「黄鹤楼」

安達武史 “湖北長江だより★★★水運都市武漢から★★★

第2号 2002年8月17日”から

水の都武漢

武漢は、三国時代から水運都市として栄えただけあって、北京から航空機約2時間で到着しましたが、赤茶けた上流からの洪水を満々と蓄えて雄大に流れる長江を中心に、見渡す限り湖と養魚池が続き、水の中に着陸するのかと思うほどでした。これが武漢の特徴です。武漢の街は武昌、漢口、漢陽に分けられています。それぞれ長江の流れとその支流の一つである漢水の流れに隔てられています。私が今滞在しているホテルは漢口であり、重慶からの三峡下り



長江と武漢江大橋

の終点の船着き場がある所です。ちなみに私の勤務している研究所は武昌であるため、長江第二大橋を渡って通勤しています。橋の長さはおよそ2キロです。武漢に到着した最初の日曜日にジョギングで10分以上もかけて橋を渡りました。雄大な長江を想像して下さい。中国最大の穀倉地帯です。その長江も本年は上流の四川省などで雨が多いため、日に日に水位が上昇している現状です。長江の長さは6380km世界で3番目、流域面積は1175千平方キロメートル(日本国土面積378千平方キロメートル)です。

武漢は日中双方にとって悲しい歴史があります。長江の流れと、周囲九省に通じる交通の要衝に位置するため、歴史上幾度も戦火に包まれました。辛亥革命の口火を切ったのもこの地であり、1938年から終戦まで日本軍の支配下に置かれました。そのため反日感情も根強く市民には残っています。



ホテル近くの解放公園の蓮

菜種生産技術開発現地実証調査とは舌をかむような長たらしい名前は、私が今回派遣されたプロジェクトの名称です。日本で消費している菜種は現在カナダを中心に輸入しております。プロジェクトでは日本が輸入する可能性があるのか、菜種の品質やコストについて現地実証調査をしています。中国の菜種生産は、長江沿岸の各省で80%以上生産しており、湖北省は

その中心的役割を果たしています。中国の菜種油は中国料理に欠かせないものであり、最大の消費国でもあります。日本では河川敷や水田裏作で景観作物「菜の花」として知られていますが、中国の農民は一戸当たり30アール程度の小規模農業ながら商品化作物として栽培されています。湖北省や私が二月まで滞在していた四川省では、二月末から三月は開花期で一面黄色のジュウタンを敷き詰めたような素晴らしい景観です。

安達武史 “湖北長江だより★★★水運都市武漢から★★★

第1号 2002年8月1日”から